

トキソプラズマ症は、病原性原虫により引き起こされる、典型的な人畜共通感染症の一種です。妊娠中に母体から胎児にも感染し、先天性トキソプラズマ症を発症することもあります。加熱処理の不十分な肉（馬刺、牛刺、鳥刺、レバ刺、レアステーキ）や、土や猫の糞に存在する原虫が口から入って感染します。その後、トキソプラズマの原虫は血液に乗って胎盤に感染・増殖し、胎児へ影響します。

母体は無症状のことが多く、妊娠中に初感染した人の約30%が胎児へ感染し、その胎児の数%～20%に先天性トキソプラズマ症を発症して、流産の原因となったり、胎児の眼や脳の発育に影響を与えたりします。出生時無症状であっても、成人になるまでに網膜の炎症や神経症状などを引き起こす場合があります。妊娠中にトキソプラズマの感染が疑われる場合には、治療薬を服用することもあります。

予防策を以下に示します。食用肉はよく火を通して調理する。果物や野菜は食べる前によく洗う。食用肉や野菜などに触れた後、ガーデニングや畑仕事、公園の砂場遊びの後には温水でよく手洗いをする。動物の糞尿の処理時には手袋を着用する。